

新入学〜うれし〜と緊張いっぽいの春到来

町内の小、中学校に新入学のうれし
い春が到来しました。町内の小学校新
入生は72人、中学生は88人。昨年より
10人多い新1年生の誕生です。

4月5日、東川小学校(村田俊昭校
長)では昨年より6人少ない56人の
友達が入学しました。
初めての大きな校舎、お兄さん、お
姉さんに迎えられる、みんなわくわく。



村田校長は「元気に登校して広いグラ
ウンドでいっぱい遊んでください」と
歓迎しました。

2年生の川名真白さんは「給食がと
てもおいしいです。みんなと一緒に食
べるのでとても楽しいです。給食が楽
しみになります。一緒に食べたり、遊
んだりしようね」と後輩を迎えました。

◇ 同日、東川中学校(森
雅則校長)では、昨年よ
り18人多い新入生。

体育館では共に3年間
を過ごす真新しい木の椅
子が新入生を出迎まし
た。

森校長は「大人への道
を一步踏み出した皆さん
にお伝えすることがあり



ます。教室の机と椅子は日本一の木製
の机と椅子になりました。自分の心と
体の一部として大切に使うて、ださい
人の心の痛みが分かるやさしい心の中
学生になつてほしい」と迎えました。

◇ 幼児センター(伊藤和代園長)では



4月7日、零歳から2歳児までの新し
いお友だち56人が入園しました。
新しいお友だちは昨年より12人多く
入園しました。246人(昨年比11人
増)の元気な声が園内にあふれました。
「いっぱい、いっぱいあそぼうね」と
みんなで手遊びをしてうれしい春が始
まりました。

元公民館中央分館長の尾池さんと東川町文化賞

元公民館中央分館長の尾池隆男さん
(83)が23年度東川町文化賞を受賞し
ました。

3月23日、農村環境改善センターで
授賞式を行いました。高木正晴教育委

員長が長年の貢献を表彰しました。
小学校教員を退職後、町の郷土史編
集専門員、東川町公民館中央分館長を
歴任しました。
その間長く広報ひがしかわ誌のコラ



ム「ふるさと探訪」「町の風」の執筆
も担当し、町の歴史や出来事に新たな
視点を当てる活動を続けました。受賞
に当たって「これからも出来る範囲で
応援していきます」と気持ちを新たに
していました。

大震災からの希望託して宮竹さんの人形展

3月16日から14日間
町内在住の創作人形作
家、宮竹真澄さんが3
年ぶりの町内展「心の
ふる里人形展・東川展」
を文化ギャラリーで開
きました。期間中の来
場者は延べ約千700
人に達し、一日平均の
入場者数では歴代トッ
プクラスの大好評ぶり
を記録しました。



代表的な歴代作品に加えて、昨年3
月の東日本大震災後に触発されて創作
した作品「北の踊り子」「1945・
夏」、2年前に第一弾作品を制作した
「明日がある」のシリーズⅡ、Ⅲ作品
など、170体63作品が会場内いっぱ
いに並びました。田園に暮らす人々を
表現した作風は、どこかふるさとへの
郷愁を誘う作品。二度、三度と会場を
訪れる方もいらつしやいました。

◇

4月10日、宮竹真澄さんが自身の作
品「嬉(うれ)しい便り」(2008
年)を町に寄贈しました。
作品展終了後、作品展の中から選ん
だそうです。第35回日象展(日本表

今年の無事故願って交通安全祈願祭

4月5日、町交通安全協会(藤田裕
三会長)の春の交通安全祈願祭が東川
神社事務所で行われました。

町内の各事業所、ライオンズクラブ
会員、交通安全指導員ら約80人が参加
し、今年1年の交通事故ゼロを祈願し
ました。

例年ならば残雪がすっかり消え、こ
の日を機に道道旭川旭岳温泉線(基線

米の苗床作りスタート、豊作願って播種祭

4月17日、東川農業
振興公社は、農業振興
センターで水稻の稚苗
作りの本格開始を告げ
る北海道米播種(はし
ゆ)祭を行い、今年の
米豊作を祈願しました。
町内の神饌田(しん
せんでん)で作付けす
る「ゆめびりか」の種
もみを稚苗ポットに種
付けし、長原淳副町長、板谷重徳東川
町農協組合長、吉田重彦北海道農業協
同組合中央会旭川支所次長の3人が温
室ハウスの苗床に移植しました。
同センターでは町内9戸の稚苗作り



調に進んでおり、天候が順調なら例年
並みの田植えが出来そうです。神饌田
の田植えは5月10日ごろを予定してい
ます。

を受託し「ゆめびりか」
「ほしのゆめ」「なな
つぼし」3品種の稚苗
ポット5千500枚を
育てています。
今年の苗づくりは、
多雪と雪解けの遅れで
総じて1週間から8日
遅れ。早い農家で9日
からスタートしました。
しかし発芽はその後順

